

企画趣旨

競争力やエンゲージメントの向上にオフィスは本当に不要なのか? 今そして将来の従業員に向けたアセットを改めて考える一

2020年に全世界を激変させた新型コロナウイルスにより我々の働き方は大きく変わり、ITの力を活用し、テレワークや在宅勤務が我々の働き方の中心に位置するようになりました。このこと自体は悪いことではなく、経済活動を止めない手法として、また働き手の負荷を軽減する意味でもおおいに活用すべき制度やツールです。

この流れで注目されているのが「オフィス不要論」です。

確かに未来永劫100%在宅勤務と決まれば、オフィスを契約/取得する必要はありません。オフィスにかけていたお金を新しい場所に振り分け今まで以上の成長や従業員満足度を高めることは正しいように思えます。

しかし、本当にオフィスは不要なのでしょうか?

出社するという行為がなくなることのメリットは否めないものの、オフィスにいるからこそ生まれた雑談や社員間のコミュニケーション、会社への帰属意識、そして採用面での安心感など投下するお金以上の価値はそこにはあったはずです。もちろんコロナ禍以前と同様のオフィスを構えることに意味はなく、これから求められるのは100%在宅勤務では実現できない様々な価値を創出する「ポストニューノーマルのオフィス」です。

そこで現代ビジネスでは、新時代のオフィスの在り方を模索するセミナーを開催いたします。先行してオフィスの重要性を 説いた経営者・有識者による講演に加え、新しいオフィスの姿を提示する皆様の講演をセットでお届けいたします。

世の中の興味が大きく集まるポストコロナ時代のオフィスの在り方を提示する本企画をぜひご活用ください。

開催概要

◆名称:ポストニューノーマル時代のオフィス

◆主催:現代ビジネス

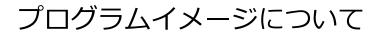
◆時期:21年11月11日(木)(予定)

◆時間:午後半日(13:00~16:00) ※状況によって応相談

◆規模:300名(事前登録400-500名前後想定)

◆参加:無料

◆対象:企業経営層や経営企画、人事・総務部門などオフィスの在り方を検討する層



時間割	内容
13:00~13:30	主催者講演
13:35~14:05	協賛社講演①
14:10~14:40	協賛社講演②
14:45~15:15	協賛社講演③
15:20~15:50	協賛社講演④

※ご協賛状況に応じてプログラムは臨機応変に対応いたします

※ご要望多ければ午前中から開催し、終日のセミナーになる可能性もございます

ご協賛メニュー

- ◆ご講演枠1枠(30分)
- ◆事前申込者リストのご提供(想定400~500件)
- ◆ご講演採録記事を現代ビジネスへ掲載(3000文字程度)
- ◆採録記事への誘導(8,000PV保証)
- ◆ご講演動画のご提供(2次利用権含め)
- ◆告知サイトへ貴社ロゴ掲載
- ◆個別アンケートの実施(指定フォーム)

特別価格:3,000,000円 (税別、グロス)

スケジュールとお問い合わせ

◆お申込み締切 : 21年9月17日(金)

◆告知開始 : 21年9月下旬

◆本番 : 21年11月11日 (木)

◆リード提供 : 21年11月19日 (金) 予定

◆採録記事公開 :21年12月上~中旬

※ご協賛企業様が3社様未満の場合は開催を見送る可能性があります点、ご了承ください

【お問合せ】

講談社 コミュニケーション事業第一部 佐藤 <u>t-sato@kodansha.co.jp</u>

小原 <u>i-kohara@stf.kodansha.co.jp</u> 徳丸 <u>ya-tokumaru@kodansha.co.jp</u>

現代ビジネスのご紹介①



「ビジネス・マネー」ジャンル 自社PV&UU数

业第1位**业**

2021年5月31日公開

日本ABC協会 Web指標一覧(2021年1-3月平均)

PV: 273,887,103

UU: 38,172,770



現代ビジネスが

「ビジネス・マネー」No.1メディアに!

日本ABC協会が公開した「Web指標一覧 2021年1-3月」(2021年5月31日付)の「ビジネス・マネー」ジャンルにおいて、「現代ビジネス」のPV数、UU数が第1位となりました。https://www.jabc.or.jp/web 2021 1g

「日経ビジネス電子版」「東洋経済オンライン」「ダイヤモンド・オンライン」「PRESIDENT Online」「マネーポストWEB」「日経クロストレンド」といったビジネスメディアがひしめき合う当カテゴリーにて、

「現代ビジネス」が一番多くのユーザーに、多くのページを閲覧されました。

引き続き「現代ビジネス」では、オンタイムだけでなくオフタイムにも愉し めるタメになるコンテンツを追及し、より多くのビジネスパーソンの興味関 心に応えてまいります。ぜひご喧伝のほど、よろしくお願いいたします。

現代ビジネス https://gendai.ismedia.jp/

現代ビジネスのご紹介②

